

大阪府立
光陽
支援学校

タイトル(テーマ)
視線入力装置を用いた学習

光陽 No. 号
平成
30年 3月 1日

対象の児童生徒
中学部 2年

困り感


・体の動きに制限があり、思うように手足を動かすことができない。

・自分の思いを周りにしっかりと伝えることができない。




取り組みの内容・授業の様子等

①授業の内容：視線入力によって、課題に取り組む。
②支援のポイント：生徒がストレスなく取り組めるよう環境を整える。声掛けを行い、サポートする。
③使用した機器、アプリ：パソコン、フレキシブルアーム、モニター、D-Subケーブル
Tobii Eye Tracker (視線入力装置)、Sensory Eye FX、Eye Mot 3D




← Tobii Eye Tracker
作動すると、3点が赤く光る。


↑視線入力を学ぶためのソフト。



↑保護者と相談のもと、視線がぶれないように、固定している。(疲れるので、取り組み時間に制限あり)



↑EyeMotに取り組む様子
風船を見て割る。補正がかかるのでストレスなくできる。



↑SensoryEyeFXに取り組む様子
段階分けされて、視線入力を学べる。これは神経衰弱の様子。

④支援機器を活用することで改善された点。

- ・自由に選択(見たいものを見る)することができ、徐々に視線入力に慣れてきた。
- ・教師とのやり取りを楽しみながら、学習に取り組むことができた。普段あまりできない内容もあるため、主体的に取り組んでいた。

成果と今後の課題

- ・主体的に、学習に取り組む姿が見られた。
- ・視線の設定、調整が必要である。筋緊張が強い子どもは特に、ポジショニングが重要である。
- ・パワーポイントなどで個人にあった選択する問題を作り、さらなる思いを引き出していきたい。